

しょうがくせい みな
小学生の皆さんへ

きがつくと、もう 5月も半ばにさしかかろうとしています。いつもなら、夏休みに行われるさまざまな行事の

じゅんび すす ころ おも みよう なつか ちゅうがっこう こうとうがっこう ことし おばやしせいしん
準備が進んでいる頃だと思つと、妙に懐かしくなります。中学校や高等学校では、今年は、小林聖心から

がいこく い おばやしせいしん き ちゅうし ざんねん しょうがっこう まいとし
外国へ行くことも、小林聖心へ来てもらうことも中止となり、残念でなりません。小学校で毎年オーストラリア

のお姉さんをお迎えて行っているジャパン・フェスティバルもできなくなりました。一つのプログラムだけが

ちゅうし か こすうかい こんかい い き ちゅうし
中止になったことは過去数回ありましたが、今回のように、行くことも来てもらうこともすべて中止というのは、

かつてなかったことです。しかし、これが今、私たちが置かれている世界の現実なのでしょう。

おばやしせいしん ちゅうがっこう こうとうがっこう つか ことば ひと きょうかい こ
小林聖心の中学校や高等学校でよく使われる言葉の一つに「Trans-Border (境界を超える)」というの

があります。現代の若者は内向きで、海外に行きたがらないとテレビや新聞の話題に上ったりしますが、

おばやしせいしん せいと み かぎ けつ がいこく たい かきね ひく
小林聖心の生徒を見ている限り、決してそんなことはありません。外国に対する垣根がとても低いでしょう。

それは英語への興味はもちろんのことですが、世界に広がる聖心ネットワークのお陰で、小さい時から海外

の話をよく耳にし、外国がいつも身近にあった、ということを卒業生が話してくれます。

たこく ゆ き きび せいげん にほんこくない たふけん いどう かぎ ちいき
他国との行き来が厳しく制限され、日本国内でも他府県への移動がままならないほど限られた地域での

せいかつ いま こっきょう きょうかい こ いみ も
生活をしなくてはならない今、「Border (国境・境界)」を超えるとはどんな意味を持つのでしょうか。しかも、

となり ひと ひと あいだ あ た ひと ちか ちゅうい ほん
隣の人とも「Social Distancing (人の間を空けること)」で他の人と近づきすぎないように注意を払わなけ

ればなりません。この生活が続くと、ウィルスがおさまったとしても、人との直接に関わることを避け、違った

ぶんか と こ ゆうき うしな な した せま なか なに へんか せいかつ わたし
文化に飛び込む勇気を失って、慣れ親しんだ狭い中で、何も変化のない生活をしているような私たちにな

ってしまうのでしょうか。

じっさい こっきょう こ じょうきょう なか にんげん こころ きょうかい こ じゅう まね
実際に国境を越えることができない状況の中で、人間の心はいつも境界を超える自由に招かれています。

がいこく て かなら なに とら こころ ひら
海外に出ていくことだけが必ずしも「Trans-Border」ではありません。何かに囚われて心を開くことがで

きない、そんな自分に気づくことが超えるということ。「Trans-

Border」の本質である「Open Mind, Open Heart

(自分の心を外に開くこと)」を、この事態の中でも生きてい

けますように。

